☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１８

神戸新聞　平成３０年７月３１日（火）

ライフル射撃 全国大会出場

専門コーチ不在の中、創意工夫で練習

あす開幕「上位50位以内目指す」

氷上西高 中垣諒太さん

8月1日から広島県で始まる全国高校ライフル射撃競技選手権大会に氷上西高（丹波市青垣町佐治）2年の中垣諒太さん（16）が出場する。2013年の創部以来、同高からは3人目の全国大会挑戦。専門コーチ不在でも創意工夫で腕を磨いてたどり着いた大舞台で、「学校最高成績のトップ50以内を目指したい」と意気込んでいる。（中西幸大）

出場する種目はビーム・ライフル立射60発競技。光線銃を使い、45分の制限時間内に10㍍先の的へ撃った60発分の合計点数を競う。的は直径約5㌢で、得点は小数第1位まで細かくはじき出される。少しのミスが大きな誤差になるため、力の入り具合など、体のわずかな変化を見逃さない集中力やぶれない軸づくりがカギになる。

兵庫県の出場枠は今年から5。6月の県予選では苦手の立ち上がりでまずまずの得点を稼ぎ、654点満点中599・3点を獲得して5位だった。中盤で得点ペースが落ちたこともあり「点数は納得できなかったが、部の注目度が上がるので全国大会は素直にうれしかった」と振り返る。

中学生の時に訪れた学校見学で興味を持った部活だが、部員は2年生7人のみで専門の指導者もいない。県協会のコーチが月に1度訪れるほかは、OBの社会人とスマートフォンを通じて技術相談をする。日々の練習は部員各自の工夫が欠かせず、フォームチェックに時間を割いたり、競技中は夏でも革ジャンのような重い競技服を上下でまとうため、バランスボールを使った体幹強化に取り組んだりしてきた。

約100人が集まる全国大会で優勝するためには95％以上の得点率が必要だ。自己ベストは608点。現実的な目標は上位50位以内となるが、わずか数％の間に数十人がひしめく世界とあって「競技人口が少ないからって簡単に立てる舞台ではない。雰囲気も楽しんできたい」と話している。

「活躍して部への注目度を上げたい」と話す中垣諒太さん。競技服は暑く、集中力維持も問われる＝氷上西高校